

長崎県民100人に聞きました（インターネット&ヒアリング）

子供の就職について

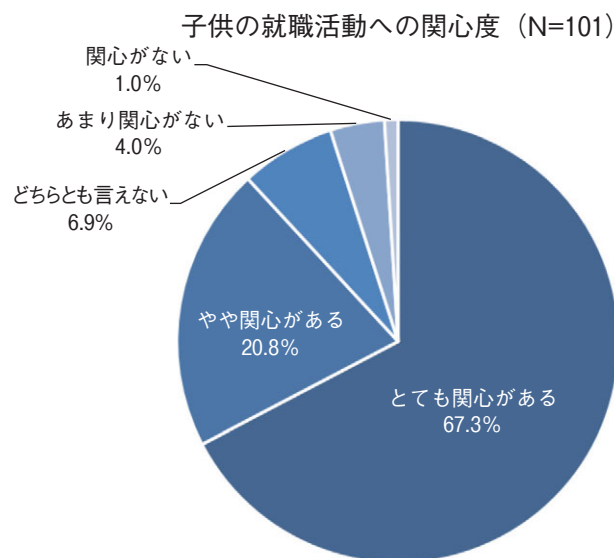
県内大学生の県内企業への就職率が減少傾向にあります。長崎県や県内の高校、大学においても県内就職率を上げるためにさまざまな取組みを行っているようですが、子供の就職活動について、その親たちはどのように考えているのでしょうか。

今回は、この数年の間に就職活動をした子供がいる保護者、あるいは就職活動を控えている子供がいる保護者を対象に、アンケート調査を行い、県内在住の男女101名より回答を得ました。

子供の就職活動に対する保護者の関わり

子供の就職活動について、関心の度合いを尋ねたところ、回答者全体の3分の2に当たる人が「とても関心がある」と答えました。「やや関心がある」と答えた人を合わせると、子供の就職活動について関心がある人の割合は9割近くに上ります。

一方、「あまり関心がない」「関心がない」と答えた人の割合は5.0%にとどまっています。



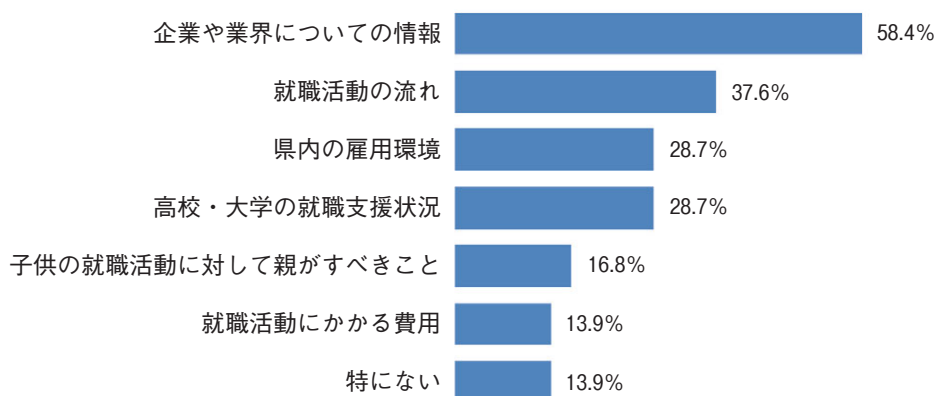
調査方法：(有)みかんコミュニケーションズが運営する長崎県内女性ネットワークMONET登録会員を中心に、インターネット及びヒアリングにより県内在住の18歳以上男女101名より回答を得ました。

調査期間：2018年8月31日(金)～9月10日(月)

回答者属性：【性別】男性30名、女性71名 【年齢】40歳代22名、50歳代65名、60歳代8名、70歳代6名
【居住地】県南88名、県北2名、県央7名、離島4名

さらに、子供の就職活動について、保護者として知りたかった（知りたい）ことは何か尋ねたところ（複数回答）、最も多かったのは、約6割の人が挙げた「企業や業界についての情報」でした。次いで「就職活動の流れ」（37.6%）、「県内の雇用環境」、「高校・大学の就職支援状況」（ともに28.7%）でした。

子供の就職活動について保護者として知りたいこと（N=101, 複数回答）

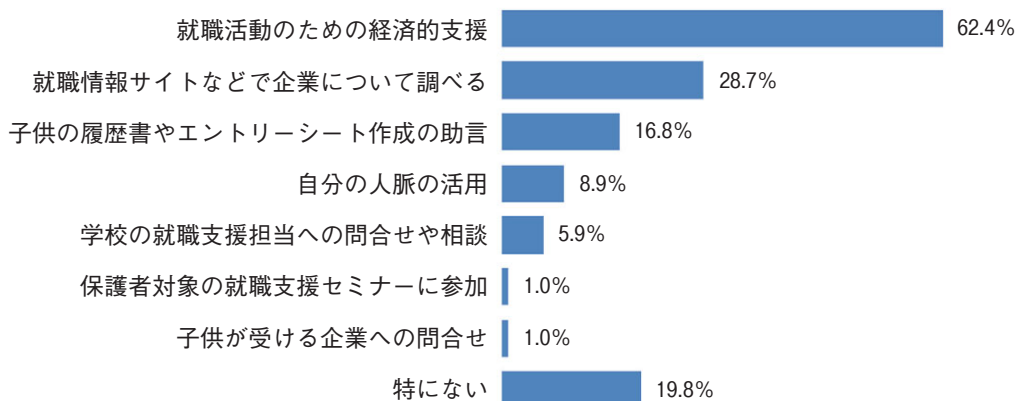


また、保護者としての子供の就職活動に対する支援について尋ねたところ（複数回答）、8割の人が何らかの形で支援した（支援しようと思っている）ことがわかりました。

支援の内容は、交通費やスーツの購入費用などの「経済的支援」が62.4%と最も多く、次いで、「就職情報サイトなどで企業について調べる」（28.7%）、「子供の履歴書やエントリーシート作成の助言」（16.8%）などでした。「相談相手になる」や「知的障害があるので、何ができるのか一緒に考えたり、情報を集めたりしている」といった意見もありました。



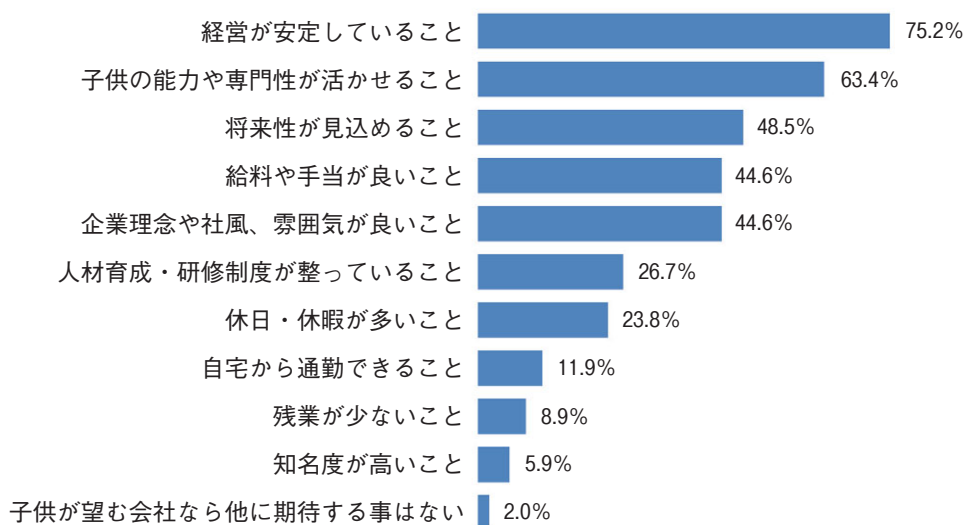
子供の就職活動に対する支援（N=101, 複数回答）



子供の就職先に期待することは「安定」

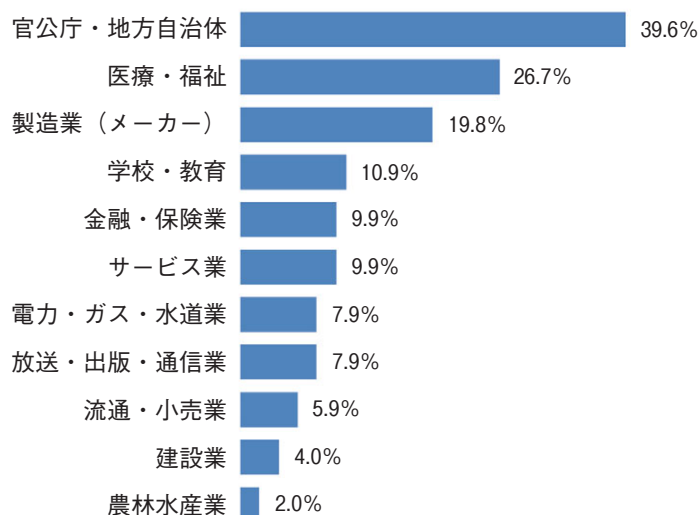
子供の就職先に期待したこと（期待すること）は何か尋ねたところ（複数回答）、「経営が安定していること」が75.2%と最も多く、次いで「子供の能力や専門性が活かせること」（63.4%）、「将来性が見込めること」（48.5%）でした。「子供が望む会社なら、他に期待することはない」と回答した人は2.0%にとどまっています。

子供の就職先について期待すること（N=101, 複数回答）



さらに、具体的に子供に勧めたいと思う業種について尋ねたところ（複数回答）、「官公庁・地方自治体」と答えた人の割合が39.6%と最も多く、次いで「医療・福祉」（26.7%）、「製造業（メーカー）」（19.8%）となっています。

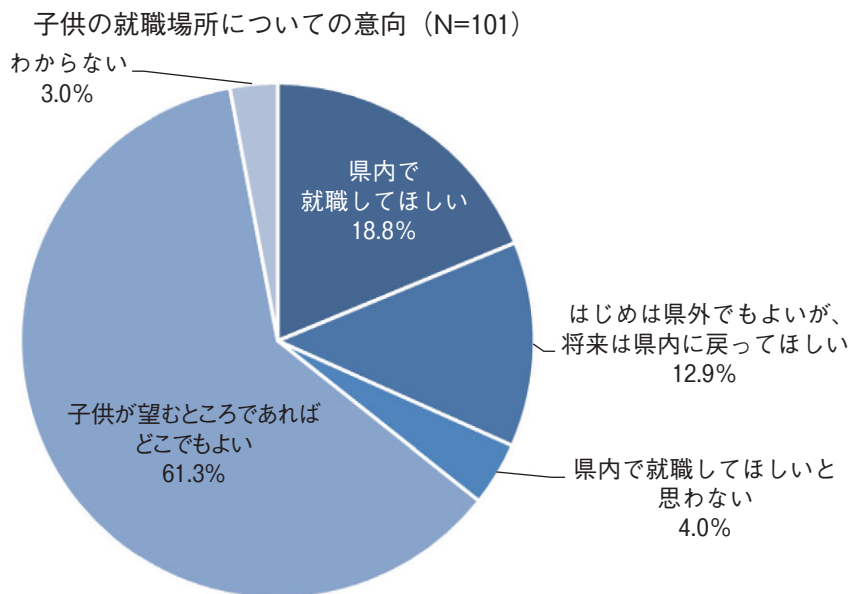
就職先として、子供に勧めたい業種（N=101, 複数回答）



子供の就職、「県内で」は3割強

子供にはどこで就職してほしいか尋ねたところ、「県内で就職してほしい」と答えた人の割合は、18.8%、「はじめは県外で就職してもよいが、将来は県内に戻り働いてほしい」と答えた人の割合は12.9%と、地元志向は回答者全体の約3分の1でした。

約6割の人は、「子供が望むところであればどこでもよい」と、子供の意向を優先する考えです。



「県内で就職してほしい」と答えた理由については、「親が年を取ってくると、近くにいてくれたほうが安心だから」や、「長男だから親元にいてほしい」、「本人がくunchiに出たいと希望しているから」、「長崎県に貢献してほしい」などが挙げられました。

「将来は県内に戻ってほしい」と答えた理由としては、「自分がそうだった（20年ほど関東で働いたのちUターン）。県外での生活で、いろいろ勉強になることもあるはず」や、「あとを継いでほしいから」、「親が一人になった時に支えになって貰いたいし、家が本家なのでお墓を受け継いで欲しい」などが挙げられました。

また、「県内で就職してほしいと思わない」と答えた理由としては、「大学が熊本で、本人も熊本で就職することを希望しているから」や、「長崎に子どもが希望する仕事がない」などが挙げられました。

地元企業についてもっとPRを

若者の県内企業への就職率が低下していることについて、保護者としての意見をまとめると、「職種が少ない、企業が少ない」や、「賃金が安い」など待遇面の問題、まちの活気や魅力の不足など厳しい現状を要因として挙げる人が多い一方、県内企業の時代に合った経営姿勢等の転換や県などによる地元企業のPRを求める声もみられました。

職種、企業数が少ない

- 企業が少なく、業種が偏っている気がします。(佐世保市・母)
- 魅力的な企業が少なく、若い子は都会に出たいと思う。(長崎市・父)
- 彼らにとっての魅力的と思える職場または企業が少なくのではないかと思う。さらに地元ではないところでやってみたいといった考えがあるのではないかと思う。(佐世保市・父)
- 県内に残ってほしいと強く思っても長崎には無いからしょうがない。(長与町・母)
- 若者が心ひかれる(能力を活かせる)企業が少なくなのかな。(五島市・母)
- 将来を託せる企業が少なく、自分の夢と企業の乖離が大きい。(長崎市・父)
- 中小企業が多く、安定していないため、県内への大企業誘致を考えてほしい。(長与町・母)
- 職種が少ない、ある程度の規模の(安定が見込める)企業が少なく、他県に比べ見劣りする給与など、他県に出ると言われても仕方がない。(長崎市・父)

待遇、福利厚生等が不十分

- 福利厚生が充実していない。正社員としての雇用が少なく給料が安い。(長崎市・母)
- 県内企業に対して将来性、給料、福利厚生に魅力を感じない。(長崎市・母)
- 県内企業に就職しても、結婚、子育てが出来るだけの給与が貰えない状況は、大きな要因だと思います。(長崎市・母)
- 賃金が安くて、家庭を築くには不安があると思う。また、女性も働くと考えたら正規雇用が望めそうにない。(長与町・母)

まちに活気、魅力がない

- 大学進学などで一度都会に出ると、長崎は遊びや買物などの場所が少ないので、就職してもつまらないと考える様になる。(長崎市・母)
- 人口も減少していて活気がない。バリバリ仕事をするところではないと思う。(長崎市・母)
- 人口減少、働きたいと思う企業がない等、若者が長崎に魅力を感じていない。(長崎市・母)
- 将来は、長崎もグローバルな県になって就職率が上がると思うが、いまはまだその時ではない。(長与町・父)

地元企業の魅力をアピール

- 地場産業の活性化。時代に適応した変換、先取りした育成。地元大学のレベルアップ、専門性の高い人材の育成。(長崎市・父)
- 県内で若者が思いっきり起業できる環境が必要だと思う。また、もっと現代にあった経営など、企業の工夫も必要。(長崎市・母)
- 高校の進路担当の先生が、県外の大学を勧めるので、高校の進路担当の先生に、「県内にも、こんな魅力があります」と県がもっとアピールすべきです。(長崎市・母)
- 長崎をもっとPRしてほしい(時津町・母)
- 頑張っている企業は沢山あると思いますが、活動があまり知られていない為に魅力が伝わらないのだと思います。メディア等を使って、もっと広く知ってもらうことが必要だと思います。(島原市・母)
- やりたいことがあるならば、県内、県外にこだわることはないと思います。地場に根付いた優良な企業も数多くあるので、知る機会を増やすことが大事なことだと思います。(長与町・父)